

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッケ

学名 *Pleurogrammus azonus*

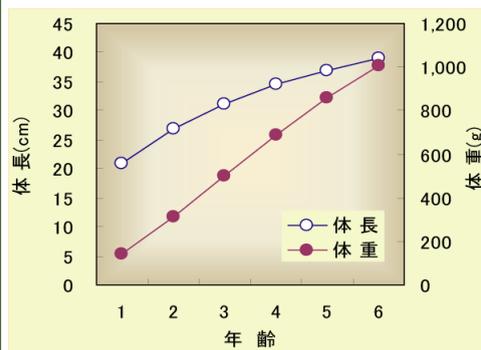
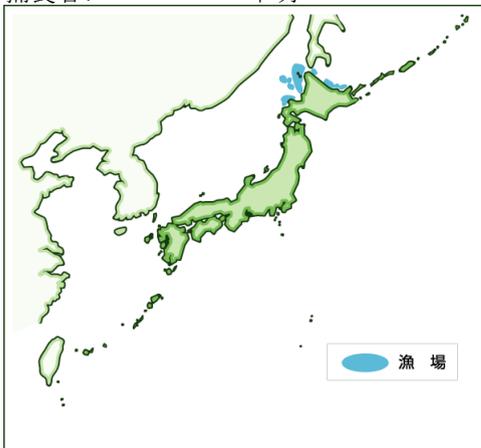
系群名 道北系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8~9歳
 成熟開始年齢: 1歳の終わり頃(満2歳直前)
 産卵期・産卵場: 9月中旬~11月上旬、利尻・礼文島の沿岸および武蔵堆の最浅部で産卵
 索餌期・索餌場: 稚魚・幼魚期に主としてオホーツク海の表層で生活し、着底後に大部分は日本海へ移動
 食性: 仔魚期には主にカイアシ類、未成魚期にはヨコエビ類を多く捕食、岩礁周辺で定着生活に移行後は、様々な種類の動物を捕食
 捕食者: 不明

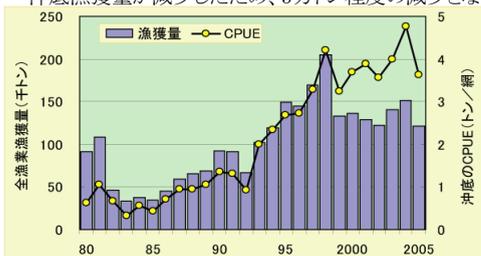


漁業の特徴

ホッケ道北系群は、沖合底びき網(沖底)、刺網、底建網、まき網などによって漁獲される。漁業種類によって主漁場および漁期は異なる。漁獲量の大半は、日本海およびオホーツク海ともに沖底で占められる。

漁獲の動向

ホッケ道北系群の漁獲量は、1980年代後半以降増加傾向にあり、1998年に20万トンを超えた。その後減少傾向に転じたが、2000年代は、12万~15万トンで安定的に推移している。2005年の漁獲量は、オホーツク海および日本海の沖底漁獲量が減少したため、3万トン程度の減少となり、12万トンであった。

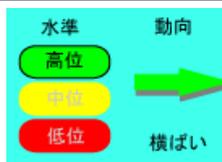
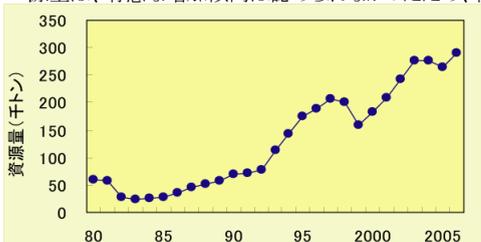


資源評価法

沖底の漁獲量が全体の7~8割を占め、CPUE変動が漁獲量の推移と同調していることから、沖底のCPUEを資源変動の指標と考え、非平衡プロダクションモデルにより資源量、MSY水準、MSYを与える漁獲割合などの推定を行った。過去20年間の推定資源量の平均値を50とし、35未満を低位、35以上65未満を中位、65以上を高位と設定し、水準判断を行った。また、過去5年間の推定資源量の推移から、資源の動向を判断した。

資源状態

推定資源量は、1980年代後半より増加傾向を示し、1999年に一度低下するものの再び増加し、近年は20万トンを越える高水準にあると推定された。2006年の推定資源量は29万トンであり、過去20年間(1987~2006年)の推定資源量の平均値を50とすると、水準値は88となったため、資源水準は高位と判断された。また過去5年間(2002~2006年)の推定資源量は、有意な増加傾向は認められなかったため、横ばいと判断された。



管理方策

資源の水準と動向は好適な状況にあることから、漁獲量の年変動を少なくし、資源水準をMSYの水準へ導くことを管理目標とした。Flimitは0.8Fmsy、FtargetはFlimitに0.8を乗じた値(=0.8・0.8Fmsy)としてABCを算出した。

2007年漁獲量 管理基準 F値 漁獲割合

ABClimit	175千トン	0.8Fmsy	-	65%
ABCtarget	140千トン	0.8・0.8Fmsy	-	52%

- ABClimitの管理基準に用いた係数(=0.8)は、漁獲量の激変を緩和するための係数
- ABCtargetの管理基準に用いた係数(=0.8)は、安全率(標準)

資源評価のまとめ

- 過去20年間の推定資源量の推移から資源の水準を、過去5年間の推定資源量の変化から動向を判断
- 非平衡プロダクションモデルにより資源量、MSY水準などを推定
- 資源は高水準、横ばいであると判断されたが、2004年から沿岸漁獲量が低下しており、注意が必要と考えられる

管理方策のまとめ

- 資源水準をMSYの水準へ導くことを目標
- Flimitは0.8Fmsy、Ftargetは0.8・0.8Fmsyとした

資源評価は毎年更新されます。